

令和7年度 学校評価表 学校教育目標「ふるさとを愛し 自他を大切にしながら たくましく未来を切り拓く生徒の育成」

学校経営の重点目標	評価計画 評価指標	アンケート調査結果 (肯定的評価%)※1			自己評価 結果分析(成果と課題)	改善計画 改善案および今後取り組んでいきたいこと
		教職員	生徒	保護者		
【1】 未来を切り拓く確かな学力の育成～「生きる力を育む」	① 授業では、課題の解決に向けて、生徒が自分で考え、自分から取り組むことができる。(自分から取り組むもうとしている。) ※2	73%	80%	76%	○おおむね良好である。 ▲学年によっては、半数以上の生徒が「していない」を選択しており、自分から取り組むことができるよう支援をしていく必要がある。	○全教職員で、チームティーチング等による支援を継続するとともに、学力育成に係る学校訪問指導、校内授業研究会の開催等とおして、効果的な支援・指導の方法の研究など、指導力の向上に努める。 ○個に応じた課題を複数提示や、タブレットの活用、グループ学習などの学習形態の工夫を積極的に、授業に意欲的に参加することができるよう支援していく。
	② 授業では、他者との対話を通して、生徒が自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。(たしよとしてしている。)	91%	82%	80%	○グループ学習などの学習形態の工夫、スリンプログラムによる関係づくりなどとおして、生徒が発言しやすい雰囲気づくりに努めた。 ▲おおむね良好であるが、議論する力や考えを深める力を伸ばしたい。また、学年によっては、授業中に他者と関わることは好きだが、課題にしっかりと取り組んでいるかの回答にばらつきがあった。改善していく必要がある。	■質問を簡潔にしたり、少し難しい課題を設定したり、生徒の考えが深まるような問いを与えたりして、話し合い活動を活性化させ、自分の意見を相手に伝えることができるように支援していく。 ○総合的な学習の時間の活動と連携して、課題の設定、情報の収集、整理分析、まとめ発表の過程をおして、考えを深めることができるよう、活動時間を確保する。
	③ 授業や家庭学習課題において、生徒1人1人に応じた学習指導が行われている。(しようとしてしている)	73%	76%	49%	○放課後学習の実施、T2の教員を可能な限り配置したり、チャレンジテストの実施、タブレット活用、たつじんテスト、全国学調の実施と分析を行うなど、さまざまな手段を講じて、個に応じた学習指導を行った。 ▲保護者は、個に応じた指導が行われていないと否定的に考えている方が多く、情報発信と効果的な支援策の実施が必要である。	■保護者に授業参観の機会を増やし、本校の学習環境や子どもたちが学ぶ姿を見ていただくとともに、家庭でも学習習慣の定着に向けて協力を得る。 ○どの教科の学習でも、個に応じた生徒の課題の選択肢をつくり、学習に対する意欲を引き出すことができるよう、指導方法の工夫を全教職員で行う。
	④ 総合的な学習の時間等において、生徒が自分の生き方を考えたり、将来に必要な力を身につけたりするための学習が行われている。(しようとしてしている)	91%	77%	87%	○3年間の学びを生かし、町おこしイベント実施に向けて企画立案、当日の実践ができた。地域の方をはじめ、多くの方とのつながりや、支えられていることを感じながら、自分の生き方や今後どんなことが実践できるかを考えるきっかけとなった。 ▲総合的な学習についての課題内容の理解が難しく、取り組みにくい生徒もいる。	■引き続き地域との連携を深め、学校での学びが実生活につながったり、将来の夢や希望の実現に繋げていけるように、3年間の見通しをもち、指導支援を継続していく。 ■将来の夢や希望がある生徒を育成するため、総合的な学習の時間だけでなく、生徒会活動や学校行事を充実させていく。
	⑤ 授業や学習課題において、おもしろい授業を展開し、授業改善に努めている。(自分に合った学習方法を模索し、学習改善に努めている。)	91%	70%	72%	○生徒の興味を引く導入や教材の工夫をし、学力育成訪問の継続指導、校内研修を実施したり、授業アンケートの実施と分析を行ったりして授業改善に努めた。 ▲生徒の結果についてはおおむねよいが、保護者は「否定的回答」も若干名いる。 ▲学年によっては、半数以上が「していない」と回答しており、自分にあった学習方法を探る方法と一緒に考えるなどの支援が必要である。	■授業参観の機会を増やし、保護者に本校の学習環境や子どもたちが学ぶ姿を知っていただき、学校と家庭が歩調を合わせて学力育成に努める。 ○校内研修の充実、教育センター研修等に積極的に参加し、指導力の向上を図る。また、わかる、できるの経験を増やし、教科のおもしろさを感じさせ、生徒が学習に対して意欲を持って取り組めるように工夫する。 ○学習規律の徹底を図り、学習に集中できる環境づくりを行う。
【2】 一人一人を大切にしたい教育の推進～「居場所づくり」	⑥ 生徒会活動等において、生徒主体の「人との関わり・対話」を大切にしたい取組が行われている。(意欲的に参加している。)	73%	77%	84%	○生徒会活動の活性化、人権集会の充実を図り、生徒の主体性を引き出す工夫を重ねている。 ▲普段から多くの関わりをもっている生徒には、必要性が感じられないかもしれない。	■生徒会活動等において、生徒の意見や思いを積極的に受け止め、学校生活をより充実させていくために委員会活動を充実させていく。
	⑦ 道徳の授業等を通して、多様性を認め、お互いを思いやり高め合う温かい人間関係づくりが行われている。(意欲的に取り組んでいる。)	80%	86%	78%	○道徳の授業時間を確保し、スリンプログラムの実践など、お互いを大切にしたい人間関係づくりを努めた。また道徳の授業の様子を学級だより等で積極的に発信し、保護者への啓発を行った。 ▲日常の学習活動をおして、できていると思っている生徒が多いのではないと思われる。	○道徳の授業時間を確保を行うとともに、学級だより等で発信し、取組を保護者に理解していただく。
	⑧ 日々の会話や教育相談等を通して、生徒の思いや悩みに対してきめ細やかに対応している。	100%	76%	65%	○生徒の様子で気になることがあれば、すぐに学年部等に報告した。教育相談アンケートの確実な実施や、アンケートQU、あゆみの活用をおして、悩みの早期発見対処に努めた。 ▲おおむね良好である。だが、もう少し相談する機会がほしいという声もあった。	■日ごろから生徒の声に耳を傾けるとともに、相談フォーラムの開設、健康観察の項目に「悩み事がある」という選択肢をつくる、相談したいことを書き込める欄をつくるなど、思いや悩みに対してきめ細かに対応して窓口を多く作ってきたい。 ○教育相談の計画的な実施、SGの活用、複数の教職員での対応などをおして、組織的に悩みの解決に力を入れていく。
【3】 特別支援教育の充実～「自立と社会参加」	⑨ 生徒の発達段階や特性に応じたきめ細やかな指導や支援が行われている。	73%	90%	73%	○市教育委員会による学力育成訪問やケース会議の実施、スワン、医療と連携等との連携を図り、きめ細やかな支援を実施した。 ▲継続して支援していく必要がある。 ▲育休代替が配置されなかったため、教員の数が少ない状況に加え、T2の配置などのきめ細やかな支援の実施、出張等の授業の振替への対応に苦慮した。職員への負担が大きい。	■市教育委員会、医療、すワンなどとの連携を深め、専門的な見地からの助言を受けながら、生徒支援を充実させていく。 ○個別の支援が必要な生徒への対応を充実させていくとともに、さらなる探求心を育むための学習機会を提供していく。
	⑩ 生徒理解、小刻みな情報共有等、全教職員で取り組む教育支援体制ができている。	82%			○生徒指導部会の定期的な開催、生徒の様子で気になることがあれば、すぐに学年部等に報告した。職員会議での情報共有時間の確保、該当者や担当者が会を行えるような時間を確保できるような時間割の作成を行ったりしている。 ▲機を逃さず情報共有していきたい。	■職員朝礼で共通理解を図るとともに、担当部署での情報共有・対応検討など、組織的に対応を継続して行う。 ■担任や担当一人で抱え込まないよう、普段から相談しあえる教職員集団をつくる。
	⑪ 保護者、行政・医療等の専門機関との連携が図られている。	91%			○ケース会議の実施、医療など関係機関との連携、本人、保護者との面談や、T2の教員を可能な限り配置し、全職員で取り組む体制を整えた。 ▲医療連携担当者や担当者が会を行えるような時間を確保できるような時間割の作成が必要である。	■関係機関との連携窓口である特別支援教育コーディネーター等を中心に、本人・保護者や学校の困っている内容を相談し、早期に助言をいただき、効果的な支援を行っていく。

評価計画		自己評価			改善計画	
学校経営の重点目標	評価指標	アンケート調査結果 (肯定的評価%)※1			結果分析(成果と課題)	改善案および今後取り組んでいきたいこと
		教職員 (11/41)	生徒 (45/47)	保護者 (48/47)		
【4】 信頼され、愛される学校づくり ～「家庭・地域に開かれた学校」	⑫ 地域の「ひと・もの・こと」を活用したふるさと教育や地域貢献活動が行われている。 (意欲的に取り組んでいる。)	91%	79%	98%	○職場体験、町おこしイベントの開催等、地域の方に支えていただき、教育活動を実施することができた。 ▲生徒数の減少、指導者の減少などにより、従来のやり方では対応できなくなっている。	○総合的な学習の時間の価値づけをおこない、「ふるさと学習」、「地域貢献」の趣旨を踏まえながら学習を深めていく。 ■生徒減少の現状を踏まえ、従来の総合的な学習の時間の指導計画を見直していく。
	⑬ 学習公開や学校だより、学年だより、HPにより、生徒や学校の様子を発信している。 (を見ている。)	100%	67%	94%	○学校ホームページの積極的な更新や学校だよりの発行をとおして、保護者や地域の方々に学校の様子を発信することができた。	○配布時にアナウンスするなど、興味関心を持ってもらえるようにPRしていく。
	⑭ 学校は、安心安全な教育環境が整備され、事故防止や災害防止への対策や指導が行われている。 (意識して行動している。)	100%	90%	93%	○毎月の安全点検を確実に実施し、破損したときにすぐに対応した。地震などの避難訓練を確実にい行い危機管理能力の向上を図った。	■生徒にも安全点検に協力してもらい、より多くの目で安全点検を実施するとともに、生徒に生涯にわたって安全に関する意識を持ち続けることの大切さを指導していく。
	⑮ 部活動や伝統芸能、その他各種大会・コンクール等、生徒が学校外で活躍できる機会がある。 (積極的に活動している。)	100%	84%	94%	○さまざまな機会をとおして生徒が活躍できる場を提供することができた。 ▲部活動の再編について情報が少ないという保護者の意見があった。	■市教育委員会等から発出される部活動の地域展開に関する情報提供を継続して行い、理解を得ながら進めていく。
学校関係者評価委員会	<p><学校より自己評価全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ●生徒・保護者の肯定的評価の割合がおおむね70%を超えており、多くの保護者の方に学校教育活動に対し理解と協力をいただいていると認識している。特に「家庭・地域に開かれた学校」に関する項目については、昨年度よりも高い評価をいただいている。 ●評価の低い項目については、授業参観の機会を増やすなど、学校の教育活動の取組状況を直接見ていただく機会を多く作っていききたい。 ●学習意欲を引き出すために、個に応じた課題の設定やICTの活用、チームティーチングの実施など、全教職員で取り組んでいく。 <p><生活の様子></p> <ul style="list-style-type: none"> ●校舎に入ったときや朝の挨拶運動ニコニコデーのときなど、生徒や職員の元気のよいあいさつや頭を下げるしぐさがよい。基本的な生活習慣が身につけていると感じる。コミュニケーション能力育成にもつながるところなので、継続してほしい。 ●おおむね70%以上の評価が出ており、職員の指導が行き届いているのはよい。これだけ指導するのは大変だったのではないかと。 ●生徒の思いや悩みに対してきめ細かく対応するために、校内外の相談体制について周知してはどうか。 <p><学習指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ICT機器・プリント教材等の活用、個人・ペアワークでの取組、主体的にワークを使って既習事項の振り返りなど、先生方のきめ細かな工夫から、生徒たちが安心して取り組む様子がうかがえた。 ●学習意欲を引き出すために、個に応じた指導、ICTの活用等の指導の工夫を中高連携しながら模索してはどうか。 <p><授業参観のあり方></p> <ul style="list-style-type: none"> ●他県の取組を参考に、「保護者に年中、自由に学校に見に来てもらい」とするなど、先生方の負担を考慮しながら、授業参観の回数を増やしてはどうか。 ●空き教室を開放するなど、地域の方にも学校内に居場所を作り、生徒の指導・支援に協力してもらってはどうか。 ●地域との一体感を出すため、門戸を広げ、地域の方にも学校に来てもらい、授業の様子を見てもらってはどうか。 <p><情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ●「掛合中だより」を毎回読んでいる。発行は大変であろうが、学校の様子がよくわかる。 ●生徒が学校ホームページや学校だよりを見ていない。見る生徒が増えるために工夫があるといい。 <p><部活動の地域展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ●今後4年で部活動は地域展開され、自然となくなっていく。職員の中には、競技が好きで指導をおこないたい人もいないか。そういった意欲のある人材を活用できる形になるといい。 ●地域展開が進んでいくと、掛合の子どもたちにとっては選択肢や機会が増える。やりたいことができるようになり、他地区の生徒ともつながりを作ることができる。移動や夜間の活動など課題はあるが、子どもの夢を親としてはかなえてやりたい。 					

※1肯定的評価の割合・・・アンケート調査の「そう思う」「だいたいそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」「わからない」を除いた「そう思う」「だいたいそう思う」の割合。 ※2評価指標の()書きは、生徒向け質問項目内容。今年度から変更。